

# 「投げ込みヒーター」の使用上の不注意による火災が発生しています。

「投げ込みヒーター」は、水を張った容器に入れることにより、簡単に水を温めることができる移動式のヒーターで、お湯を沸かす目的で広く使用されています。



## 火災事例

- 投げ込みヒーターを浴槽内に入れたものの、水が入っていない状態でヒーターの電源を入れてしまったため、空焚き状態となり火災となった。
- タイマー設定で電源が入るようにしていたが、電源を切っていなかったため、空焚き状態となり火災となった。

# 投げ込みヒーターは、 次の点に注意してご使用ください！

- 1 使用後は、電源プラグを抜く。**  
※電源の切り忘れによる火災が最も多いため、必ず電源プラグを抜くようにしてください。
- 2 樹脂製容器で使用しない。**  
※樹脂製の容器で使用すると、容器の溶融、火災、感電などの原因となります。
- 3 水中に入れてから電源プラグを差し込む。**  
※投げ込みヒーターの発熱部は電源プラグを差し込む（電源が入る）とすぐに高温になります。
- 4 目の届く範囲で使用し、その場を離れないようにする。**  
※長時間使用することにより水が蒸発し、水位が低下すると、空炊き状態になり火災の原因になります。
- 5 使用後はすぐに水中から出さない。**  
※使用後は高温となっているため、可燃物と接触しないよう注意してください。
- 6 安全装置付きの製品を使用する。**  
※温度上昇を防ぐ「自動温度調整付」や自動的に電源が切れる「空炊き防止機能付き」などの安全装置付の製品を使用することで、火災の発生を防止できます。